〈様式２〉　　埼玉県道徳教育研究推進モデル校　実績報告書

研究主題「人としての生き方についての考えを深め、
よりよく生きる生徒を育てる道徳教育の創造」
～ 学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して ～
幸手市立幸手中学校

１　研究主題の設定理由

本校では、学校の教育目標として、「学び続ける生徒（知力）」、「心豊かな生徒（徳力）」、「活力ある生徒（体力）」を育成することを掲げている。特に、生徒に身に付けさせたい力として、問題解決能力、協調性、ＩＣＴ活用能力、学習内容の理解と活用力を重視している。研究の最終目標は、生徒が自ら課題を見つけ、目標に向かって努力する学校づくりを進めることにある。そのために、生命に対する畏敬の念に根ざした人間尊重の精神を培い、道徳性を養う教育実践、対話を通して道徳性を深める授業、人権教育などの生き方を推進している。

令和元年度から「プランニングシート・振り返りシートの活用」などを全クラス共通で行い、道徳教育の研修を続けてきた。生徒の内面的資質を育成し、「考え、議論する道徳」への授業の質的転換を目指している。これまでの成果は、令和３年度の「関東甲信越中学校道徳教育研究大会」などで発表してきた。しかし、アフターコロナの社会の動向と本校のこれまでの課題を踏まえ、小中連携の視点から９年間での児童生徒の学びを見通すことで、さらなる道徳教育の充実と自学自習できる生徒を育てていく必要がある。自己を見つめ、よりよく生きることのできる生徒の育成を主軸に、道徳教育の要となる道徳科の授業改善、ＰＢＬ、リーディングＤＸ事業における自ら学ぶ主体的な学びを進めている。

２　研究の仮説

(1)教師の道徳的価値に対する理解と明確な意図を持つ指導により、 生徒は自らの生き方を多面的・多角的に考えることができるであろう。

(2)道徳授業において、道徳的価値の理解や振り返りを実践することで、 生徒は自らの生き方についての思いや願いをさらに深めることができるであろう。

(3)授業の展開では、ねらいにせまる的確な発問とその連続性を構築し、意見交換の場を確保することで、生徒の「自発的・主体的な深い学び」や「他者を思いやる態度」が身に付くであろう。

３　研究の経過

月	日	研　究　内　容
４月	23 日	幸手市ＧＩＧＡスクール構想推進委員会
	24 日	幸手市小中学校連絡会議
		幸手中学校区学力向上授業研究協議会（幸手小学校）
５月	17 日	校内研修推進委員会

〈様式２〉　　埼玉県道徳教育研究推進モデル校　実績報告書

	24 日	県道徳教育推進連絡会議
６月	３日	校内道徳教育研修会（幸手市教委　山本直人先生）
	５日	マナー教室２年（社会体験学習のための礼儀、マナーを学ぶ）
		第２回 Souzou 塾 with 吉川に職員参加
	14 日	幸手市学力向上推進委員会
	17 日	県ＩＣＴ活用プロジェクト　リーディングＤＸ事業指定校講演会
		児童相談所における教員研修会
	19 日	幸手市年次研修研究授業（道徳）1 年 3 組
	20 日	幸手桜の学びセミナー職員参加
		第３回 Souzou 塾 with 吉川に職員参加
	21 日	校内研修会（道徳、学力向上、ＤＸ部会）
	24 日	北海道教委視察団のための授業公開（2 学年 4 クラス、1 年 1 組）
７月	２日	幸手中学校区学力向上推進に係る授業研修会（さくら小学校）
	３日	幸手市道徳教育推進協議会
	８日	校内メディアリテラシー向上学習会（３年生）
	９日	幸手市年次研修研究授業　道徳　3 年 3 組
	11 日	幸手市ＧＩＧＡスクール構想推進委員会
９月	３日	職場体験学習（２学年　～４日）
	９日	命を大切にする講演会（２学年）　校内研修会（指導案検討会）
	12 日	幸手市年次研修研究授業（道徳）2 年 2 組、2 年 4 組
	17 日	未来につながる学びを支援する訪問授業研究会
	20 日	生成ＡＩ活用学習会（全校生徒）
	26 日	リーディングＤＸ事業先進校視察（宮城県岩沼市）
10 月	９日	幸手市教委・県東部教育事務所学校訪問（各学年 道徳研究授業）
	11 日	幸手市学力向上推進委員会
	17 日	県東部地区道徳教育研究協議会
	18 日	幸手中学校区学力向上に係る授業研究会
	24 日	幸手市年次研修研究授業（道徳）　3 年 2 組
11 月	６日	市道徳教育モデル校担当者会議
	15 日	市道徳教育推進協議会　小中合同あいさつ運動（さくら小）
	19 日	東部地区道徳教育研究協議会
	20 日	市教研進路指導・キャリア教育授業研究会（道徳　上高野小）
	25 日	幸手市ＧＩＧＡスクール構想推進委員会　男女共生セミナー（ふれあい講演会）
	26 日	幸手市年次研修研究授業（道徳）　2 年 3 組
	27 日	学校保健委員会講演会
	29 日	第 10 回 Souzou 塾 with 吉川に職員参加
12 月	５日	リーディングＤＸスクール事業に係る視察（鳥取市、岡山県井原市）
	９日	幸手桜の学びセミナー職員参加

〈様式２〉　　埼玉県道徳教育研究推進モデル校　実績報告書

	10 日	市道徳教育推進協議会（西中学校での教育長による示範授業）
	13 日	山西教育長による道徳科示範授業　３年４組
	26 日	幸手桜の学びセミナー・幸手市道徳教育推進モデル校合同研修会
１月	21 日	県ＩＣＴ活用プロジェクトＬＤＸ・道徳モデル校授業公開

４　研究の内容

(1) 各教科等の特質に応じた道徳教育の実践

道徳科の目的は、生徒が社会生活において守るべき行為の基準（道徳観）を養うことで、生徒それぞれの道徳性を育むことにある。道徳的価値の理解を基に人間としての生き方を考え、生徒が人間の見方を広げたり深めたりすることが重要である。本校では、年間指導計画に従い教科書を効果的に活用しているが、必要に応じて重点指導項目として文科省教材や「彩の国の道徳」を効果的に扱っている。特に授業研究会では教科書の使用が著作権等の関係で制限されるため、外部に内容が発信できない課題がある。また、教材吟味を重視し、すべての教育活動について、道徳教育の「内容」を意識して、それぞれの教科、領域の特質に応じた指導の重要性の共通理解を深めながら道徳教育を推進している。

(2) 授業プランニングシートを活用した連続性のある効果的な道徳科授業実践

教材研究では、教材の「よさ」を見つけ、教材文と道徳の内容を関連付け、教材の持つ力を最大限に引き出すことをモットーにそれぞれの教師が授業づくりを行っている。教材の題名に込められたメッセージを想像し、道徳的価値を意識して読み込み、心に残る場面を大切にするなどの工夫を取り入れ、各指導者が自分自身の解釈（納得解）を持つことを目指している。効果的な授業展開を行うためには、発問を精査してその連続性で生徒に深くそれぞれの問いを考えさせることが重要である。

(3) １時間ごとの効果的な振り返りと記述カード（タブレット）の活用の実施

道徳科の授業の目標は、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことである。「道徳的価値の理解」とは、「一般的には、道徳的価値の意味を捉えること、またその意味を明確にしていくことである」。そのような理解を基に人間としての生き方についての考えを深めるためには、効果的な「振り返りの工夫」が重要である。道徳的価値の理解と同じくらい道徳科の授業では、これまで以上に重要視されなければならない教育活動であると言っても過言ではない。生徒自身がデジタルでの記述カードを積み上げていることが、自らの成長の歴史ともなる。

(4) 「意見交換」の活発化、ＰＢＬ活動や生成ＡＩの活用

「リーディングＤＸスクール」として、ＧＩＧＡ端末とクラウド環境を最大限に活用し、生徒の情報活用能力の育成を目指す。ＩＣＴを活用して、個別最適な学び

と協働的な学びを一体的に充実させることで、50 分間黙ってやり過ごす道徳科授業を打破し、ＩＣＴを活用した自由な意見交流や仲間の意見と比較して、生徒自らの価値観を深めることを試みている。授業では、学習支援ソフトやフォームス、エクセルなどのツールを用い、生徒全員が自分の考えをアウトプットし、意見交流を行っている。エクセルシートでは、自らの意見を記載するとともに、「班の広場」ではチャット形式で班それぞれの意見や考えを記載し、生成ＡＩを活用して「プラスワン」や「メンバー」としての役割をもたせ、班の意見を整理するなどの工夫を行っている。

(5) 非認知能力、特に「自己肯定感」を高める教材の研究と授業実践

非認知能力は、生徒が未来を切り開くための重要な資質であり、意欲、協調性、忍耐力など学力検査では測定できない能力でもある。具体的な要素として、目標達成への粘り強さ、工夫する力、協力する力、自己を動機づける力、感情コントロール能力、自己と他者を大切にする力がある。さらに、失敗を恐れないチャレンジ精神、自己決定と責任感、問題解決能力、自己の良さを活かす力、反省を活かす力、目標達成への努力が考えられる。私たちは生徒のよさに着目し、生徒の「自己肯定感」を育むことが重要である。そのためには、教材吟味で生徒を勇気づけられるように教材を使用し、話し合い活動でお互いに高め合える工夫を生かすことが大切である。

５　研究の成果と課題

(1) 授業プランニングシートにはねらいとする価値について、①学習指導要領解説を読み、教員が自分なりに解釈をすることから始まる。次にそのねらいとする価値に関連した②生徒の実態を考える。そして③明確なねらいや④教材の生かし方を考えていく。授業のクライマックスは⑤ねらいにせまる発問で生徒に問わなくてはならない発問（中心発問）である。その中心発問を支え、話合いの柱となる発問を⑥基本発問として位置づけ、中心発問、基本発問の補助的な役割を果たす発問・その他の発問を⑦として記載するようなプランニングシートとなっている。さらに平素の授業において、授業プランニングシートを活用して、質の高い道徳科授業を実践していく。

(2) 幸手市道徳アンケートの結果から「規律ある態度」の調査項目であるあいさつに関する項目、今年度の埼玉県学力学習状況調査の結果から非認知能力の「自己効力感」において、僅かではあるが上昇した。また、ＩＣＴの利活用により、主体的で対話的な深い学びの学校平均も上昇している。また、県の分析結果では、「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすく、学級経営がよいほど、「非認知能力」や「学習方略」を伸ばすとある。本校では、道徳教育の充実を図るとともに、学級や学年、学校生活の生徒の満足度をアップし、生徒が安心して楽しく充実した生活を送るとともに、自らを見つめ、希望や目標をもつことによって自学自習が定着するようさらに実践に重ねていく。